

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 158

江戸川区立上小岩小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+2	+3	+5	令和8年度の目標	+1	0	+1	0	+5	+4.3	+3.7	+1.5
令和7年度の結果	-1	0	-11	令和7年度の結果	0	-3.8	-2.1	-3.2	+3	+2.3	+1.7	-0.5
令和6年度の結果	-7	-7	-14	令和6年度の結果	-1	-0.3	+2.1	+1.1	-0.8	+5	-3	+0.4
令和5年度の結果	-6	-5	-11	令和5年度の結果								

年度	令和7年度		令和8年度	
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】 ○学力向上の時間(のびっ子)の時間で基礎的な学力の補充ができた。調査結果からも基礎的な部分の得点は高かった。</p> <p>【課題】 ○全国学力・学習状況調査の結果から、算数科では、応用問題得点に関しての得点率が低かった。国語科では、説明文に対しての記述問題の得点が低かった。また、自分の考えを文章で表現したりする問題の得点率が低かった。</p>	<p>○全学年が学習スタンダードを理解して学習できるようにする。 ○算数科では、各領域の応用的な問題に不安なく取り組めるようにする。 ○国語科では、自分の考えや主張を叙述をもとに明確に書くようにする。発達段階に応じた、語彙や漢字を習熟し、日常で活用できるようにする。</p>	<p>○共通認識をもって授業が展開できるように、各教科主任と連携してOJTの計画をたてる。各教科のスタンダードを意識して授業力を向上させる。 ○各教科の復習問題や、類似問題を学力向上の時間を活用して反復的に解く。各学年に応じた即題集を活用し習熟を図る。 ○第3学年までは、特に日記・手紙の指導に重点をおき、第4学年からは、よむYOMUワークシートを効果的に活用する。</p>	
第1学年	<p>【成果】 ○ベアで話すことで、自分の考えを整理しまとめることができた。 【課題】 ○算数科の「とけい」単元で、短針と長針を正しくよむことができない児童が多い。</p>	<p>○読み聞かせや毎日の授業から、言葉の種類と使い方を知り、文章に書き表すことができるようにする。 ○算数科では、繰り返し学びを関連付けられるようにする。</p>	<p>○学校生活の中で時間を意識することができるようにする。 ○反対語、他の物に例える等、多くの言葉に出会う工夫をし語彙を増やす。</p>	
第2学年	<p>【成果】 ○丁寧な音読指導が実を結び、全児童が言葉の響きやまとまりを大切にしながら、自信を持って読めるようになった。 【課題】 ○算数科の九九テストでは、目標タイム(1分)に届かない児童が1割ほど残っているため、個別のフォローが求められる。また、自分の考えを図表化する表現力については2割の児童に苦戦が見られ、指導の工夫が必要である。</p>	<p>○国語科の授業で語彙を増やす。 ○全児童が、九九を1分で唱えられるようにする。 ○算数科では、自分の考えを簡単な表やグラフを使って、表現できるようにする。</p>	<p>○週1回の家庭学習に日記を書くことを組み込んだり、各教科でお世話になった方々に手紙を書くこと計画的に行ったりすることで、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようになる。 ○九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。 ○九九検定を行い、学校長が認定書を発行する。 ○算数科では、簡単な表やグラフを用いて自分の考えを表す時間、お互いの考えを伝えあう時間を確保する。</p>	
第3学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「言語」「話す・聞く」は全国平均を上回っていた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「書く」「読む」、算数科では「数と計算」「図形」「測定」すべての領域で全国平均を下回り、特に「図形」は-9.1ポイント下回った。また国語科・算数科ともに、観点別では「思考・判断・表現」が全国平均より低かった。</p>	<p>○読書量を増やし、児童が文章を読んだ際に心に残ったことや自分の考えを文章で表現できるようにする。 ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。 ○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。</p>	<p>○図書の時間を確保し、多くの本を読めるようにする。年間学習計画の中で、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書く単元に力を入れる。 ○算数科では3クラス4展開の習熟度別学習を年間を通して実施し、習熟度に応じて基礎基本や応用力を身に付けられるようにする。 ○話し合いの場を多く設定し、自分と違う考え方に対するの思考力を養っていく。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、AB層を合わせてみると10%増加し、特にA層は国語・算数共に9%増加した。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「話すこと・聞くこと」、算数科では「測定」「図形」の領域で全国平均を下回った。また国語科・算数科ともに、観点別では「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均より低く、特に算数の思考・判断・表現は-4.1ポイント下回った。</p>	<p>○国語・算数共に問題文を正しく読み取り、聞かれていることに対して正しく答えることができるようにする。 ○記述式の回答に対応できるようにする。 ○算数科では、習熟度別の授業を活かし、基本的な図や計算を問題に応じて的確に使いこなせるようにする。</p>	<p>○国語の授業において、言葉の意味や接続語など文章を正しく読み取り、正しく書けるようにする。国語で身に付けた力を算数の問題の解くことにも活かしていく。 ○ベアやグループでの対話型の授業を展開し、相手に伝わりやすい言葉選びや文章作りを日常的に行えるようにする。 ○文章題を急に式に表すのではなく、必要な情報に印をつけたり、図や表に表し自身が解きやすいように手順を踏むことを習慣化させる。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、基礎問題の正答率は高かったが、説明文の正答率が低かった。算数科では、江戸川区定着度調査と学習カルテを活用し、繰り返し個に応じた基礎・基本の定着を回った。各問題の基礎問題は、すべて全国の平均を超えることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では「書くこと」、算数科では、応用問題の得点率が低かった。</p>	<p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、図、数、式を使って問題を解決できるようにする。 ○対話的な授業実践と個に応じた指導を実践する。 ○各教科で、「書くこと」を意識した授業展開をする。</p>	<p>○算数科の授業では、習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは、授業の構成を工夫し、多くの発展問題やタブレット端末を活用した取り組みを行う。 ○区が主催する筑波大学教諭による公開授業や指導教諭の授業公開に各教員が参加することで、対話的な授業実践や指導の個別化と学習の個性化を図る個に応じた指導を実践する。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査と全国学力調査の結果からは、基礎学力の定着が見られた。全国学テではAB層が10%以上向き、知識・技能の領域での結果が高かった。 【課題】 ○主体的な学びや対話的な学びは全国に比べて若干下回っていた。授業中での様子からは意欲的に参加する姿が見られるので、毎日の学習が児童の自信につながるよう働きかけが必要である。</p>	<p>○国語は、読み書き計算といった基本的な知識・技能に加え、それらを活用して問題解決する力や主体的に取り組む力を培う。 ○見通しをもって、主体的に学習を進められる力を養う。 ○言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を培う。</p>	<p>○反復練習や習熟度学習を取り入れる。 ○算数は、単元ごと、授業ごとに今日の目標を児童に分かりやすく提示する。ノート指導など具体的な学習方法の指導を図る。 ○知識を活用して他者に説明したり、考えを共有したりする活動を取り入れる。</p>	